



佛偈
元治五百題

下



元治五百題目録

秋之類

名月一	待宵二	今日の月	名月雨
月見之	秋月	月	初月四
三日月	十六初月五	後の月	十五初月
新田娘台	文月	葉月	七月
初秋	立秋七	夕顔の秋ハ	七夕
星祭九	秋祭	橘葉	天の川十
燈	送火十二	言とらる	接たぬ
送火	州市	初祭	初祭
初祭	初祭十三	生面初	冬の月

おとら <small>十七</small>	花火	秋風 <small>十六</small>	忘扇	秋の雨 <small>世</small>	秋の雪 <small>世</small>	秋の露 <small>世</small>	秋の雲 <small>世</small>	秋の夕 <small>世</small>	秋の夜 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の空 <small>世</small>	秋の山 <small>世</small>	秋の川 <small>世</small>	秋の池 <small>世</small>	秋の田 <small>世</small>	秋の園 <small>世</small>	秋の里 <small>世</small>	秋の村 <small>世</small>	秋の町 <small>世</small>	秋の国 <small>世</small>	秋の世 <small>世</small>
秋の雨 <small>世</small>	秋の雪 <small>世</small>	秋の露 <small>世</small>	秋の雲 <small>世</small>	秋の夕 <small>世</small>	秋の夜 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の空 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>

相葉 <small>世</small>	菱柳 <small>世</small>	草の花	草の花	蔓珠沙花 <small>世</small>	秋 <small>世</small>	系 <small>世</small>	花 <small>世</small>	野菊 <small>世</small>	葵の花 <small>世</small>	尾花 <small>世</small>	ゆ <small>世</small>	栗 <small>世</small>	木 <small>世</small>	
秋の雨 <small>世</small>	秋の雪 <small>世</small>	秋の露 <small>世</small>	秋の雲 <small>世</small>	秋の夕 <small>世</small>	秋の夜 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の空 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>	秋の月 <small>世</small>

響	秋の蟬	秋の蝶	秋の蚊
みの虫	蜻蛉	とんぼ	電馬 五十五
蟀	蟋蟀	冬虫	蛸 五十六
蛸	蛸	尾	百舌鳥 五十八
啄木鳥	鶯	鳴	紅燕
尾城鳥	麻	九月	秋書 五十一
冬迄	秋行		

大方凡百五十八歌

元治五百歌目録

冬之歌
 一 初雪 四
 吹雪
 初雨

時雨	五	霜	六	雪	七	霜	八
冬ノ雨	水柱	初冬	小春	霜	冬	霜	冬
霜月	師	初冬	冬	霜	冬	霜	冬
神道	神の苗	神道	冬	霜	冬	霜	冬
神楽	十夜	幸	冬	霜	冬	霜	冬
冬を忌	水取	水	冬	霜	冬	霜	冬
冬念仏	大師	落	冬	霜	冬	霜	冬
冬木立	木枯	枯柳	冬	霜	冬	霜	冬
枇杷花	山茶花	や	冬	霜	冬	霜	冬
宝梅	冬梅	冬牡丹	冬	霜	冬	霜	冬
枯尾花	枯蓆	茶花	冬	霜	冬	霜	冬
石菖花	冬菜	枯芦	冬	霜	冬	霜	冬

州枯	枯	大松引	芥菜
麦蔴	千鳥	鴉鷲	水鳥
籾	をー	浮掻鳥	木鳥
籾	冬の燗	鷹	冬の鳥
暖鳥	寒苦鳥	水鳥	鯨
網代鳥	霖	生海嵐	鱧
菜吟	象	寒	冬蔴
布衣	紙衣	頸巾	足袋
巨燗	埋火	火桶	火作
泊蔴	燗系	冬掻	口切
髪系	携系	凍	氷
雪車	振	凍	納豆
世一	世二	世三	世四

情入	炭	冬の月	冬月
冬の目	狐八	咳る山	冬の川
冬の目	燗拂	冬田	冬の山
年の市	成木蔴	候掻	候蔴
岡見	石拂	冬結	冬結
大晦日	年暮	年暮	年暮
大九	百廿七	百廿七	百廿七
世一	世二	世三	世四

文治五百年歌後句集

秋之歌

叶中房希永輯

和

秋の月や細虫は有海の上

福山

秋の月や中つらき道に暁の星

卓信

秋の月や空のくさりの花の香

観壽

秋の月やゆりうらもせぬ草の影

許十

有

秋の月や津を渡る舟の消雲

梅生

秋の月や雲を渡る舟の影

其賢

春賦
一 春
可 佛
永 膳
松 月
原 桂
雲 月
泉 山
鳥 我
舞 水

春賦
一 春
可 佛
永 膳
松 月
原 桂
雲 月
泉 山
鳥 我
舞 水

春

清 良
文 起
杜 年
空 山
年 抱

清 良
文 起
杜 年
空 山
年 抱

氷 雪
雨 靜
春 柳

氷 雪
雨 靜
春 柳

春山 吹衣 知大 淡月
 東野 政頂 不洩
 雨 雲 雨 雲

月 見
 交脚 柳洗 如々 二葉 小枝 暮木 清高 弄水 泉嶺

下

三

昔はうらむもそよのらぬ
そよの樹木ありし頃の
後月相輝ありし頃の
あふも。相もは流るる
端も。まの吹や風は
物事のあはれあり頃の

昔は
北年
己巳
也仙
松林
希水

己巳
夜

鶴の相ありし頃の
あふも。まの吹や風は
物事のあはれあり頃の

己巳
也仙
松林
希水

秋
田

鶴の相ありし頃の
あふも。まの吹や風は
物事のあはれあり頃の

己巳
也仙
松林
希水

文
有

文の相ありし頃の
あふも。まの吹や風は
物事のあはれあり頃の

己巳
也仙
松林
希水

月
有

月の相ありし頃の
あふも。まの吹や風は
物事のあはれあり頃の

己巳
也仙
松林
希水

長 節折ふ長月梅一花
存 長月や雲見ぬ日和十日梅

智南
木交

幼

幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり

寸夜
子来
蜜糖
清白
瑛翠
茶林
如親

秋

幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり

病肉
嬰樹

立

幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり
幼 幼種や梅とて先ぬり

知古
北山
千布
梅園
一節
木真
律吹

秋

藤原のふも海にや秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香

而聽
拂曉
林鶉
作哉
水觀
作雲
嘉風
去真

秋の香

秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香
秋の香に秋の香に秋の香

靜樹
斗抱
十
一作
嘉山
秋大
作陽
去一
去真

新 東の海へ新の舟の舟
舟の舟へ新の舟の舟

藤松 東文

梅 梅の梅へ梅の梅の梅
梅の梅へ梅の梅の梅

雪浦 作瑞

一 梅の梅へ梅の梅の梅
梅の梅へ梅の梅の梅
梅の梅へ梅の梅の梅
梅の梅へ梅の梅の梅
梅の梅へ梅の梅の梅

為山 舍用 北山 牙弁

天

水

天の天へ水の水の天
水の天へ水の天の天
水の天へ水の天の天
水の天へ水の天の天
水の天へ水の天の天
水の天へ水の天の天
水の天へ水の天の天
水の天へ水の天の天
水の天へ水の天の天
水の天へ水の天の天

一 藤 木公 二案 東舞 秋島 野梅 松花 東流 秋

焼

野の川とては銀河
松尾の川とては銀河
晴の川とては銀河

赤糸
金糸
糸

焼の川とては銀河

為山

焼の川とては銀河

文記

焼の川とては銀河

桂渡

焼の川とては銀河

著書

焼の川とては銀河

巻書

焼の川とては銀河

二葉

焼

焼の川とては銀河
焼の川とては銀河
焼の川とては銀河
焼の川とては銀河
焼の川とては銀河

拖
一葉
閑
塵
葉
希

焼

焼の川とては銀河
焼の川とては銀河
焼の川とては銀河

一
桐
末

栢

栢の木の葉は野にや新緑の
栢の木の葉は野にや新緑の
栢の木の葉は野にや新緑の

すべ
栢
葉
智南

色

色の中は色の中は色の中は
色の中は色の中は色の中は
色の中は色の中は色の中は

赤
葉
赤

送

送るもの送るもの送るもの
送るもの送るもの送るもの
送るもの送るもの送るもの

松
葉
送

栢

栢の木の葉は野にや新緑の
栢の木の葉は野にや新緑の
栢の木の葉は野にや新緑の

赤
葉
栢

栢

栢の木の葉は野にや新緑の
栢の木の葉は野にや新緑の
栢の木の葉は野にや新緑の

赤
葉
栢

香

香の氣の薫古事ふは
あつたをよきとて
こゝろにまはるる
御所のあつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて

湯野 株嘉 流川 古壺 白鴉 晴山 葉作 楽交

子

柳

柳の葉の青とて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて

葉作 晴山 白鴉 古壺 流川 株嘉 湯野

柳

柳の葉の青とて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて

千国 楽交

生身

生身のあつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて

葉作 楽交

あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて
あつたをよきとて

法成 耀香 源柳 法厚

光

場... 橋... 子... 五... 幸... 河... 洞... 上... 廣...

可伴 色月 準堂 希水 江之 反女 相安 新島 三巴

秋

景

廣... 幸... 洞... 上... 廣... 幸... 河... 洞... 上... 廣...

素夜 来光 希水 玉川 智南 卷山 杜年 梅次

相

古の人の形見をよめる南力が
猶とて相撲をよめる見ゆるに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに
まゝにまゝにまゝにまゝにまゝに

清氏 敬之 洗心 芭園 雁島 西舞 山衣 三巴 清河

撲

秋の勢

海の中を渡る人秋の勢は
空を渡る鳥の如く秋の勢は
空を渡る鳥の如く秋の勢は
空を渡る鳥の如く秋の勢は
空を渡る鳥の如く秋の勢は
空を渡る鳥の如く秋の勢は
空を渡る鳥の如く秋の勢は
空を渡る鳥の如く秋の勢は
空を渡る鳥の如く秋の勢は

揚生 可頂 翠松 友吹 永益 松樹 揚舟 其翼 磯敷 鹿江

ア

去

秋風のけしき... 秋のけしき... 秋のけしき... 秋のけしき...

晴河 重行 希有

冬

雪のふり... 雪のふり... 雪のふり... 雪のふり...

暮夜 林卯 松彦 葉依 一朗 晴河

春

あけぼの... 春のけしき... 春のけしき... 春のけしき...

清氏 其望 葉依 木古 松需

夏

あつたけ... 夏のけしき... 夏のけしき... 夏のけしき...

以三 持恩 山百

上

下

雄鳥 三十一日
 雀水 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日

鳥

梅酒 三十一日
 雀水 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日
 一表 三十一日

竹の葉は風に揺られ
 水は流れて石を打つ
 雲は空を覆い
 鳥は木を飛び回り
 虫は草を這い回り
 花は春を告げ
 月は夜を照らす
 星は空を飾る
 風は大地を渡る
 雨は大地を潤す
 雪は大地を覆う
 氷は大地を凍らす

竹葉 流水 雲鳥 虫花 月星 風雨 雪氷

竹の葉は風に揺られ
 水は流れて石を打つ
 雲は空を覆い
 鳥は木を飛び回り
 虫は草を這い回り
 花は春を告げ
 月は夜を照らす
 星は空を飾る
 風は大地を渡る
 雨は大地を潤す
 雪は大地を覆う
 氷は大地を凍らす

竹葉 流水 雲鳥 虫花 月星 風雨 雪氷

初物
 初物

初物
 初物
 初物

初物
 初物
 初物

寄

夕暮やの秋葉の夜道に
晴らぬの空もあはれ小籠
船の舟はたつとて川邊
河津草や舟の舟の思ひ
物もやとて舟の舟の思ひ
船もやとて舟の舟の思ひ
明物とて舟の舟の思ひ
鏡の舟とて舟の舟の思ひ
人舟とて舟の舟の思ひ

兎野
麟止
岳原
山陰
有香
舟大
舟瑞
妻衣
壺長

物

書

物もやとて舟の舟の思ひ
舟の舟とて舟の舟の思ひ
舟の舟とて舟の舟の思ひ
舟の舟とて舟の舟の思ひ
舟の舟とて舟の舟の思ひ
舟の舟とて舟の舟の思ひ
舟の舟とて舟の舟の思ひ
舟の舟とて舟の舟の思ひ
舟の舟とて舟の舟の思ひ
舟の舟とて舟の舟の思ひ

舟舟
清氏
自渡
如鶴
東一
一舟
舟舟
三巴
舟仙

瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に

泉氷
 花舟
 香山
 良好
 志々
 千代女
 秋矣
 李騰
 珠明
 矢足

野

瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に
 瑞河の舟を乗る所を舟に

一虎
 菊翁
 昇水
 泰眠
 清鬼
 葉仙
 二雲
 新登
 龍遊

草のつとむるの通る花のつと

草水

子

子孫のつとむるの通る花のつと

草水

物

物事のつとむるの通る花のつと

草水

物

物事のつとむるの通る花のつと

草水

回

回りのつとむるの通る花のつと

草水

物

物のつとむるの通る花のつと

草水

物

物のつとむるの通る花のつと

草水

物のつとむるの通る花のつと

草水

八節

八節や花枝枝の影さる
八節や花枝枝の影さる
八節や花枝枝の影さる
八節や花枝枝の影さる

南白
牡丹
紫雲
木上

教生會

一物家多事一運力や教生會
一物家多事一運力や教生會
一物家多事一運力や教生會
一物家多事一運力や教生會

美丘
物色
桂思
井水

板の

藤さのうらまは板の影
藤さのうらまは板の影
藤さのうらまは板の影
藤さのうらまは板の影

苦山
月昇
白雲

子馬

馬さのうらまは子の影
馬さのうらまは子の影
馬さのうらまは子の影
馬さのうらまは子の影

雄鳥
柳柳
法因
菊蘇
三巴

卯年

三三

源

清溪之流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮

清溪
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮

葉

心

子

清溪之流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮
流兮流兮

清溪
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮
流兮

流

水

流

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

流

す

子

尚

三

午

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

北

花

泰

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

三

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

也

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

客

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

千

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

一

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

抱

流ハナハハナハハナハハナハハナハ

義

秋 水 山

秋の山は水に映る如く
水は山に流る如く
山は水に映る如く
水は山に流る如く
山は水に映る如く
水は山に流る如く
山は水に映る如く
水は山に流る如く

秋 水 山
如 鶴 為 山
希 水 秋 雲
一 矢 知 春
一 春 幻 々
外 雲

秋 水 山

秋の山は水に映る如く
水は山に流る如く
山は水に映る如く
水は山に流る如く
山は水に映る如く
水は山に流る如く
山は水に映る如く
水は山に流る如く

秋 水 山
如 鶴 為 山
希 水 秋 雲
一 矢 知 春
一 春 幻 々
外 雲

秋

音画也紙之各様子
用止之と書可也
端通の及の事
梅の花は此の
赤心は
赤心は
赤心は
赤心は

雄鳥
疎柳
文女
東一
角止
梅柳
津吹
赤水

物

江三
赤推
杜年
用風
星推

乳

千十
千十
千十

千十
千十
千十

夜 比 せ

あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに

加茂 保之賢 原 依 沼 泉 本 公 三 巴 青 芝 智 札 菊 海

公 夜

あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに
あつちのきりぎりすのこゝろに

松 壺 赤 糸 赤 糸 竹 二 赤 糸 貞 海

アキ 天

新酒

新酒や解るる病。一思案
解るるし新酒の甚意し
播種し病るるの解るる事

淡尾
風山
羅山

秋和

田のまの楊梅と解。秋日和
岩をくすすの事物と秋日和

仁星
智角

秋の首のくすすの事物と秋日和
石のまの楊梅と解。秋日和

休月
良の

長

長。くすすの事物と秋日和
くすすの事物と秋日和

休月
希水

新の空

くすすの事物と秋日和
くすすの事物と秋日和
くすすの事物と秋日和
くすすの事物と秋日和

車馬
菊梅
和休
清臣

秋の首のくすすの事物と秋日和
くすすの事物と秋日和

馬橋
東交

秋

人

陽の影のさす庭の秋の聲
鳴の葉のさす庭の秋の聲
新の波のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲

一宜 山松 木公 柳 桂 桂 柳 洗

く

秋

秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲
秋の影のさす庭の秋の聲

柳舟 水電 清馨 菖屋 一熱 一養 泉嶺 曾水 善郡 青羊

歌

あはれなる心も
浅くもなほ
あはれなる心も

春 清 柳

種

あはれなる心も
浅くもなほ
あはれなる心も

柳 春

あはれなる心も
浅くもなほ
あはれなる心も

柳 春

何

雨

あはれなる心も
浅くもなほ
あはれなる心も

柳 春

秋

雨

あはれなる心も
浅くもなほ
あはれなる心も

柳 春

新のつとまのふ枝くら秋の風

一か

秋の
新のつとまのふ枝くら秋の風

一か

深林や名刺ふ沸きとるま
枝とる枝を扱くや家へ付
も年や枯の葉む山の緑
深林や思ふす所のまの
思ふらちちと有るもの

深林
一か
葉を

柿

ふら柿ふもあつた物
夕暮きつとまのや物

其は
来交

一を柿の枝くら
老の清ふ枝くら
思ふらちちと有るもの
思ふらちちと有るもの
思ふらちちと有るもの
思ふらちちと有るもの

塵外
素心
秋意
友松
寄艾
子来

了

三

物 類

流の急なる河川に葉が

叶波

流の急なる河川に葉が

素眠

流の急なる河川に葉が

邊舟

流の急なる河川に葉が

満盤

流の急なる河川に葉が

葉依

流の急なる河川に葉が

三巴

流の急なる河川に葉が

如地

流の急なる河川に葉が

春山

流の急なる河川に葉が

奔水

111

111

流の急なる河川に葉が

麦穂

流の急なる河川に葉が

蘇糖

流の急なる河川に葉が

保柳

流の急なる河川に葉が

矢女

流の急なる河川に葉が

相如女

流の急なる河川に葉が

梅浦

流の急なる河川に葉が

魯谷

流の急なる河川に葉が

雨蘇

流の急なる河川に葉が

望崖

流の急なる河川に葉が

三巴

草花

乃中一草花
瑞々花
梅
牡丹
芍薬
桔梗
水仙
菖蒲
薔薇
紫陽花
朝顔
秋桜

草花
萩
菖蒲
紫陽花
朝顔
秋桜

草花

乃中一草花
瑞々花
梅
牡丹
芍薬
桔梗
水仙
菖蒲
薔薇
紫陽花
朝顔
秋桜

草花
萩
菖蒲
紫陽花
朝顔
秋桜

一谷
紫嶺
川山
泉山
泉水
子來
父母
父母
父母
父母
父母
父母
父母
父母

一谷
紫嶺
川山
泉山
泉水
子來
父母
父母
父母
父母
父母
父母
父母
父母

東 權

清齋
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公

清齋
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公
津公

折のふりておきとぬうと申す種
ゆゑもなむと申す未推也

也仙
飛丸

萬の
海のふりておきとぬうと申す種
ゆゑもなむと申す未推也

後調
真更

藤
ついでと申す海のふりておきとぬうと申す種
ゆゑもなむと申す未推也

東飲
也仙
龍志之

尾
南のふりておきとぬうと申す種
ゆゑもなむと申す未推也

松尾
牛店
也仙

喜珠
海のふりておきとぬうと申す種
ゆゑもなむと申す未推也

茶外
あはれ

喜
海のふりておきとぬうと申す種
ゆゑもなむと申す未推也

名山
東飛
松頂

青々たる緑のしずく

露水

清らかなる水の流れ

清川

清らかなる水の流れ

清川

清らかなる水の流れ

清川

清らかなる水の流れ

清川

花

梅の花は春の先

梅

桜の花は春の先

桜

桃の花は春の先

桃

梨の花は春の先

梨

橘の花は春の先

橘

山花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に

山花
影に
影に
影に
影に
影に
影に
影に
影に
影に

花の影

山花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に

山花
影に
影に
影に
影に
影に
影に
影に
影に
影に

花の影

山花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に
影に花の影に

山花
影に
影に
影に
影に
影に
影に
影に
影に
影に

山花

山花

一、南の風は、北の風より、

西舞

中、北の風は、南の風より、

江三

北、東の風は、西の風より、

赤蔭

東、南の風は、北の風より、

山

南、西の風は、東の風より、

東舞

西、北の風は、南の風より、

雙武

北、東の風は、西の風より、

知矣

東、南の風は、北の風より、

柏車

南、西の風は、東の風より、

水

西、北の風は、南の風より、

也

北、東の風は、西の風より、

清氏

東、南の風は、北の風より、

負人

南、西の風は、東の風より、

木公

二十

五

風

系

復

葉

花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春

松頂
牙文

苞

花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春

長用
風山
東月
仁星
後調
角子

花

花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春
花もつや葉もつやの南の春

芙蓉
瑞頂
慕眠
子来
空美
松石
孤眠
春境
東山

拈投

雲の下の龍の面をうらむ野舟
 雲の下の龍の面をうらむ野舟

物露 如蟻

夢の中の目のまもりの拈投

余用

流す水の目のまもりの拈投

清氏

春の川の目のまもりの拈投

壯山

夢の中の目のまもりの拈投

拈のり

夢の中の目のまもりの拈投

晴河

夢の中の目のまもりの拈投

身鼻

夢の中の目のまもりの拈投

あや波

七種ふとりの目のまもりの拈投
 七種ふとりの目のまもりの拈投

泉嶺 乙良

雲の下の龍の面をうらむ野舟

為山

雲の下の龍の面をうらむ野舟

等哉

雲の下の龍の面をうらむ野舟

洗氏

雲の下の龍の面をうらむ野舟

身雨

雲の下の龍の面をうらむ野舟

寸成

雲の下の龍の面をうらむ野舟

身鼻

雲の下の龍の面をうらむ野舟

物脚

流

カキ

三三

時の松の影の如くして是處
梅光の如くして是處
梅光の如くして是處
梅光の如くして是處
梅光の如くして是處
梅光の如くして是處
梅光の如くして是處
梅光の如くして是處
梅光の如くして是處
梅光の如くして是處

梅光
梅光
梅光
梅光
梅光
梅光
梅光
梅光
梅光
梅光

紫苑

紫苑の如くして是處
紫苑の如くして是處
紫苑の如くして是處
紫苑の如くして是處
紫苑の如くして是處
紫苑の如くして是處
紫苑の如くして是處
紫苑の如くして是處
紫苑の如くして是處
紫苑の如くして是處

紫苑
紫苑
紫苑
紫苑
紫苑
紫苑
紫苑
紫苑
紫苑
紫苑

野

野の如くして是處
野の如くして是處
野の如くして是處
野の如くして是處
野の如くして是處
野の如くして是處
野の如くして是處
野の如くして是處
野の如くして是處
野の如くして是處

野
野
野
野
野
野
野
野
野
野

菊

下

目

風心 種々の中を去りし風心
 風心 風心の種々の中を去りし
 風心 種々の中を去りし風心

可煩 風心 木交

新 新のやうな新の法所
 新のやうな新の法所
 新のやうな新の法所

清皮 新柳 玉浦 木交 著

新 新のやうな新の法所
 新のやうな新の法所
 新のやうな新の法所

二葉 頂木

新 新のやうな新の法所
 新のやうな新の法所
 新のやうな新の法所

木交 新

新のやうな新の法所

木交

福

無福の平の... 福の山
福の山... 福の山
福の山... 福の山
福の山... 福の山
福の山... 福の山

竹陽
他山
負武
龍泉
奈外
山岳

良
善

良善の... 良善の
良善の... 良善の
良善の... 良善の
良善の... 良善の

山岳
山岳

菊

菊の... 菊の
菊の... 菊の
菊の... 菊の
菊の... 菊の
菊の... 菊の
菊の... 菊の
菊の... 菊の
菊の... 菊の
菊の... 菊の

菊山
氷壺
魚空
赤月
鏡魚
花月
菊空
菊空
菊空

客海一... 白... 梅... 亦... 一... 系... 陽... 去... 子...

紫... 扇... 其... 一... 梅... 一... 松... 孤... 龜...

尾

一... 西... 如... 雲... 惟... 一... 西... 如... 雲... 惟...

律... 水... 如... 梅... 雲... 一... 西... 如... 雲... 惟...

十

十

左記の如くは、
月一とて、
...

重下
清良

東

東記の如くは、
東記の如くは、
...

清古
一物
奇永
甚因

松

松記の如くは、
松記の如くは、
...

深為
福南

鳥

鳥記の如くは、
鳥記の如くは、
...

楳栗
帚水

瓜

瓜記の如くは、
瓜記の如くは、
...

貞清
川吉橋
某賦

梅

梅記の如くは、
梅記の如くは、
...

楊枝
木交

娘

...

...

木の葉よもぎしるもやしのつたのたが
ふもいづれのしものやあまの日和も

糸佳
帯水

蘭

あのかまのしよもあて見しあのみ
きりくもあまのきりくも蘭のつた

子夏
糸夏

草

草花や運まふかす元の花
花のつたけふあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま
草花やあまのあまのあまのあま

桐花
梅那
松浦
松加

粟

草花やあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま

久女
弄水
竹枝
舟仙
楓山

草

あまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま
あまのあまのあまのあまのあま

一翹
晴河

林

葉

鐘聲のこゝろははるかに響く
照らす光のこゝろははるかに照らす
奥の奥のこゝろははるかに奥の奥
袖の袖のこゝろははるかに袖の袖
花の花のこゝろははるかに花の花
赤い赤いこゝろははるかに赤い赤い
雪の雪のこゝろははるかに雪の雪
指先は地州のこゝろははるかに指先は地州

熱地 素良 三巴 松隣 梅のこゝろ 表裏 松基 貞徳 松偵

水

葉

清らかなる水ははるかに清らかなる
川の流れははるかに川の流れは
石の石のこゝろははるかに石の石の
松林の松林のこゝろははるかに松林の松林
まはりのまはりのこゝろははるかにまはりのまはりの
河の河のこゝろははるかに河の河の
水の水のこゝろははるかに水の水の
水の水のこゝろははるかに水の水の

清氏 中陽 水花 男女 太山 滝底 一朗 丹頂 青古 梅月

禁々々頂々々々々々々々々々々々
南陽水の日々々々々々々々々々
中々々々々々々々々々々々々々々々
下野入日の数々々々々々々々々々
若水のまじりまじりまじりまじり
神の舟と拍子音の舟と拍子音
山々々々々々々々々々々々々々々々
高々々々々々々々々々々々々々々々
峰の峰々々々々々々々々々々々々々

赤高 甚巽 柳巽 泉嶺 春山 一洞 清山 月夜 赤水

本
新編

新編のまじりまじりまじりまじり

赤水 如糖

業
順

業々々々々々々々々々々々々々々々
法々々々々々々々々々々々々々々々

赤水 松舟

地味やまのまじりまじりまじり
虫のまじりまじりまじりまじり
のまじりまじりまじりまじり

松頂 玉川 芙蓉

下

上

清

清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る

清 流 山 有 香 派 川 松 基 明 凡 来 住

清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る
清の流るるに思ふ清の流る

知 方 静 史 露 草 文 女 車 一 如 月 如 夜 来 抱 如 水 希 水

松
松のやぶのふもとに
まじりてはるのふゆ

乙良
赤良

葉
葉のふゆのふもとに
まじりてはるのふゆ

子赤
赤良

松の
松のふゆのふもとに
まじりてはるのふゆ

赤良
赤良

秋の松

秋の松のふゆのふもとに
まじりてはるのふゆ
松のふゆのふもとに
まじりてはるのふゆ
松のふゆのふもとに
まじりてはるのふゆ

三柳
流雲
可憐
松の女
良斗
梅亦

秋の松

秋の松のふゆのふもとに
まじりてはるのふゆ
秋の松のふゆのふもとに
まじりてはるのふゆ

や仙
赤良

甲子

辛三

子
の
書

清月
三鳥
や仙
菊嘉

清月
三鳥
や仙
菊嘉

情

清民
清知
梅園
山楂

清民
清知
梅園
山楂

吟

や仙
皓月
梅邊

や仙
皓月
梅邊

可
也

珠池
為風
如親
化山
梅の
脈来

珠池
為風
如親
化山
梅の
脈来

静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に

静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に

電

静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に

清閑
夏山
明窓
保之賢
柏花

陣

静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に
静かなる夜に

清輝
泉嶺
寸茂
如仙

陣や能くもくは結し

春山

鳩

鳩鳴か何れ白鷺を打落
鳩鳴の大波もくもく海に押

東月
長夜

雀

雀の音もさあやのあもさあや
おまかたのうらみも流るる流
飛ぶくも水も流るるあまの
おまかたのうらみも流るるあまの

如物
李舟
杜年
雨静

物
す
免

一節の二をふも色いなる
物直しよる物のおまの
いも直物も流るる海に
あまのうらみも流るるあまの
あまのうらみも流るるあまの

圓生
長年
休研
紫輪
豊真

鳩

鳩鳴か何れ白鷺を打落
鳩鳴の大波もくもく海に押
あまのうらみも流るるあまの
あまのうらみも流るるあまの
あまのうらみも流るるあまの

春山
雄鳥
鳥草
東月

高崎の山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少

桑畑 園生 一掃 苦古 糲生 環水 白粉 子環 道吹

白
鳥
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少
ありては山にありて少少

素考 一掃 松基 帯水 木公 露草 尚車 山如 梅月

形 時 也 之 乃 也 於 之 於 之 一

希 水

啄

啄 木 之 乃 啄 之 乃 也 新 之 社
啄 木 之 乃 啄 之 乃 也 新 之 社

啄 木 之 乃 啄 之 乃 也 新 之 社

啄 木 之 乃 啄 之 乃 也 新 之 社

啄 木 之 乃 啄 之 乃 也 新 之 社

啄 木 之 乃 啄 之 乃 也 新 之 社

啄 木 之 乃 啄 之 乃 也 新 之 社

鵲

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社
鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲 木 之 乃 鵲 之 乃 也 新 之 社

鵲

以 蕙

いひまゝのこゝろに蕙を
ふりまわすかたはなほ

本草
楽只

蕙 城

たけのこ 花をいへば
たけのこ 花をいへば

土泉
楽只

昔もくわいせいの
蕙のうゝ花をいへば
枝のちのちの蕙の
花をいへば

水陽
桐葉
杜年
梅仙

蕙

蕙のうゝ花をいへば
花をいへば
花をいへば
花をいへば
花をいへば
花をいへば
花をいへば
花をいへば

正奇
生草
淑苑
嘉哉
春山
柳琴
旅高
珠明
卜添
基大

下

草

九
竹

新涼のやうな長少のやうな海のやうな
月のやうな夜をながめながらの
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな

可也法
月夜
悠遊
知者
楽交
帯水
菟山
林鶴
杜年

竹
秋

清涼のやうな長少のやうな海のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな

也仙
来交

竹
道

清涼のやうな長少のやうな海のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな
舟のやうな舟のやうな舟のやうな

来交
来交
清良
知者

秋 以

以秋とあるとまをぬ柳が
以秋やまのふ露一山の毛
以秋や風がくくぬきありの来
以秋や長くくくぬきありの来
以秋や夜もくくぬきありの来

晴河 苔石 茶煙 糸交 糸水

又治五る歌愛句集

冬之歌

竹中彦希の輯

以

とくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく
とくくくくくくくくくくくく

為山 梅笠 松池 倉園 冬夜 水物

一羽翫をあらはしむるや
神の徳也や。やまの徳峰
若くしそ見送しむるや
はあ〜〜松の葉は
竹の葉のさか〜若くは
音のやう〜松の葉は
松のやう〜松の葉は
音のやう〜松の葉は

一馬 山尖 真丈 茶佳 可佛 鶴趾 栗堂 鳳凰 干葉 糖松

山小の〜松の葉は
音のやう〜松の葉は
松のやう〜松の葉は
音のやう〜松の葉は
松のやう〜松の葉は
音のやう〜松の葉は
松のやう〜松の葉は
音のやう〜松の葉は
松のやう〜松の葉は
音のやう〜松の葉は

計松 智礼 素考 希艾 素慶 素登 素純 一葉 旅高 菊翁

重止るく推しつらや矢少府
那ふつゝおの節しきおまを
らふらふやふさふさの物
枯つくすおまをいふおまを
ふまの節しきおまをいふ
下上おらふまをいふおまを
物しきおまをいふおまを
けまをいふおまをいふ
おまをいふおまをいふ

古香 道圓 正己 快哉 柳舟 玉川 弁嬰 并乐 物曜 赤向

道しきおまをいふおまを
おまをいふおまをいふ
おまをいふおまをいふ
おまをいふおまをいふ
おまをいふおまをいふ
おまをいふおまをいふ
おまをいふおまをいふ
おまをいふおまをいふ
おまをいふおまをいふ
おまをいふおまをいふ

得形 夏搦 一講 修賢 古大 天丸 静史 象季 清真 一知

此表のすゝめ 故の松
海のしるし 雲や霞をよめる
雲のしるし 雲の霞をよめる
雲のしるし 雲の霞をよめる
雲のしるし 雲の霞をよめる
雲のしるし 雲の霞をよめる
雲のしるし 雲の霞をよめる
雲のしるし 雲の霞をよめる

青森 芦水 福澤 松崎 東文 松頂 望山 西嶽 柏尾

物

雲

日少のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる

木公 辰龍 月仙 政頂 真佐 為空 希水

山

此のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる
物雲のしるし 雲の霞をよめる

熊野 熊野

三

四

神河

推すまぬらふはまらふはまらふは
形のはらふはまらふはまらふは
山麓のまらふはまらふはまらふは

知麦
松蔭
常水

野道の松をまらふはまらふは
半のまらふはまらふはまらふは
野道のまらふはまらふはまらふは
神河のまらふはまらふはまらふは
大川の嶽原のまらふはまらふは
まらふはまらふはまらふはまらふは

松頂
盤圃
竹叢
陽室
雲翠
竹隈

絶了のまらふはまらふはまらふは
河先のまらふはまらふはまらふは

松琴
松晴

志 ぐ 神

河のまらふはまらふはまらふは
河のまらふはまらふはまらふは
河のまらふはまらふはまらふは
河のまらふはまらふはまらふは
河のまらふはまらふはまらふは
河のまらふはまらふはまらふは
河のまらふはまらふはまらふは
河のまらふはまらふはまらふは

氷壺
等哉
梅並
花海
野山
菊雨
新丸

霜

霜を木ふ羽と延延寸霜が
雪ふ野の思入るは春の思入るは

太香
木交

露

露をうき袖を袖のなき露の
結わら可極の露のなき露の
露のなき露の思入るは春の思入るは
露のなき露の思入るは春の思入るは
露のなき露の思入るは春の思入るは

鹿山
林所
枕山
露在
園生
縣山
三巴

霜

霜を田や物端の目と露の
露のなき露の思入るは春の思入るは
露のなき露の思入るは春の思入るは
露のなき露の思入るは春の思入るは
露のなき露の思入るは春の思入るは

三樹
去々
露在
露在
露在
露在
露在
露在

川海を古くききし 素のし
千の道まをちまを しのも
神探のふたのまを 居るの
新法 有るまを 所の
情のちのまを ちのまを
清くまを ちのまを 霜の
神新やまを ちのまを
物新のちのまを ちのまを
起くまを ちのまを 船
まを ちのまを ちのまを

素風
鹿山
聽松
文女
文之
甘露
雨蘇
一仙
秋貢
月羅

あまのまを ちのまを
清くまを ちのまを 松
照るまのまを ちのまを 霜
神新やまを ちのまを 船
まを ちのまを ちのまを
まを ちのまを ちのまを
神新やまを ちのまを 船
まを ちのまを ちのまを
まを ちのまを ちのまを
まを ちのまを ちのまを
神新やまを ちのまを 船
まを ちのまを ちのまを

津陽
比祈
清馨
其馨
清魚
悠哉
金飛
来月
舞水

水 雨 水 舟

舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば

當女 杜身 宗家 雨聲 鱸趾 双魚 楽更 如鶴 魚信

桂

桂の雨始を始しとていへば
桂の雨始を始しとていへば
桂の雨始を始しとていへば
桂の雨始を始しとていへば
桂の雨始を始しとていへば
桂の雨始を始しとていへば
桂の雨始を始しとていへば
桂の雨始を始しとていへば
桂の雨始を始しとていへば
桂の雨始を始しとていへば

梅郎 弄水

舟 雨 水

舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば
舟の雨始を始しとていへば

杜身 双魚 楽更 如鶴 魚信

十有八日と二日と白の

芭蕉

庭井の草花の

名山

障子の障子の

芭蕉

雲の日の静けさ

牛陽

雲の木の青も

喜島

深泉の舟の

修禪

静かに

梅窓

梅の花の香の

柏平

月

喜島

山

雲の木の青も

竹雨

苔の石の静けさ

雨静

雲の木の青も

花梅

静かに

静聴

知る

知麦

梅の花の香の

手袋

吟

吟馬

花

花近

下

下海

江

江島

水
 送
 其のふらふらとて思ふ水は
 梅の山はあまのりくか
 日ありの花のさきとて
 井のふらふらとて思ふ水は

魚海
 其水
 其水

神
 送
 日あつたふらふらとて思ふ水は
 松の山はあまのりくか
 神送はあまのりくか
 其のふらふらとて思ふ水は

友松
 原松
 友松
 清電

神
 の
 送
 其のふらふらとて思ふ水は
 松の山はあまのりくか
 神送はあまのりくか
 其のふらふらとて思ふ水は

聖水
 東泉
 東泉
 大雅

神
 送
 其のふらふらとて思ふ水は
 神送はあまのりくか
 其のふらふらとて思ふ水は

其水
 其水
 其水

子 子

あつて後かたしつゝとて
市の魚刺きくやとて去後
産後皆あつてやとて去後
あつてはつてあつてやとて去後
市つゝもあつてあつて去後

一云
一云
松旭
希水

子

あつてはつてあつてはつて
月松とあつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて

清民
十
山
桐

十

長

あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて
あつてはつてあつてはつて

晴月
楽友
一云
一云
三巴
暗河
栗堂
素考
松旭

挽歌も是の如きもの十巻の
山も中用と云ふなり十巻紙
終雨 希水

道 素哉
心 秋
心 星

道 素哉
心 秋
心 星
有城

道 素哉
心 秋
心 星
有城

道 素哉
心 秋
心 星
有城

古
以
清の務と志好く西佛を
身少海の南の海に山に取
浦人の知れぬ事なり山に名

清氏
原信
清良

神

音能事と月と事と中神部
事と取と心と海と神部
事と事と事と事と神部
事と事と事と事と神部
事と事と事と事と神部
事と事と事と事と神部

其望
清系
晴河
新野
知友
非類

部

以
事と事と事と事と神部
事と事と事と事と神部
事と事と事と事と神部
事と事と事と事と神部

清氏
三巴
而聽

大
神

山と事と事と事と神部
海と事と事と事と神部
事と事と事と事と神部
事と事と事と事と神部

三案
三巴
如山
南香

風

雪

雪の舞はるる風は吹く
雪の舞はるる風は吹く
雪の舞はるる風は吹く
雪の舞はるる風は吹く
雪の舞はるる風は吹く
雪の舞はるる風は吹く
雪の舞はるる風は吹く
雪の舞はるる風は吹く
雪の舞はるる風は吹く
雪の舞はるる風は吹く

雪山 梅雪 風玉 東信 依島 青年 櫻圃 雪我 雪山

木

葉

木の葉は舞はるる風は吹く
木の葉は舞はるる風は吹く
木の葉は舞はるる風は吹く
木の葉は舞はるる風は吹く
木の葉は舞はるる風は吹く
木の葉は舞はるる風は吹く
木の葉は舞はるる風は吹く
木の葉は舞はるる風は吹く
木の葉は舞はるる風は吹く
木の葉は舞はるる風は吹く

一鳥 一喚 初梅 雨軒

水

石

水の流るる風は吹く
水の流るる風は吹く
水の流るる風は吹く
水の流るる風は吹く
水の流るる風は吹く
水の流るる風は吹く
水の流るる風は吹く
水の流るる風は吹く
水の流るる風は吹く
水の流るる風は吹く

勇水 棠鏡 七仙 石城 風雲

風のあはれを思ふ所あり

如指

風や山崎とありてくす春

雄鳥

あはれや御新羅の海に下地

揚園

本指や小波をのち南風は折る

木更

風中吹ゆ中ありて春まの春

風少

本指のあはれを思ふ所あり

一網

あはれや海に力とつて春ま

松橋

風の吹ゆてしよの吹ゆてしよ

狐眠

本指のあはれを思ふ所あり

快哉

木

指

風の中吹りて春まの春

北山

本指やあはれを思ふ所あり

松柳

風や吹ゆてしよの吹ゆてしよ

象山

あはれや海に力とつて春ま

泉呈

風や吹ゆてしよの吹ゆてしよ

清堂

本指やあはれを思ふ所あり

長茶

風の吹ゆてしよの吹ゆてしよ

双魚

風や吹ゆてしよの吹ゆてしよ

希水

柳を吹ゆてしよの吹ゆてしよ

清山

粘

粘

らゝきやうと粘了柳の粘
粘くの粘もあつた英明寺
粘折の粘もあつた粘の粘もあつた

貞人
竹陽
竹枝
弄水

あの後と粘を粘りて
山科の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた

名山
水邊
梅道
梅生
梅奇

の

元

元

元

あの後と粘を粘りて
山科の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた
粘の粘もあつた粘の粘もあつた

一竹
高凡
理曉
楽只
秋香
李舟
葉松
素風
弘く
子来

枇杷

竹枝
梅老
清良
一秋
也化
希水

清良、ぬすめりて、枇杷の葉
と、あなをたのむ、枇杷の葉
枇杷の葉、つよ、つよ、つよ、つよ、つよ

希水
也化
一秋
清良
梅老
竹枝

枇杷の葉

希水

枇杷の葉

希水

枇杷の葉

希水

枇杷の葉

希水

枇杷の葉

希水

枇杷の葉

希水

枇杷の葉

希水

枇杷の葉

希水

枇杷の葉

希水

枇杷

泉嶺
花友
帯水

85
麦
東
麿

李
鳳

の
物
正
松
村
香
堂
松

む
松
正
堂
希
水

水 棟

晴るるをいへば入りて枝をす枝の
 ありてはあまのついでに水は枝
 水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の

春眠
 水碑
 常春
 木石
 木石
 木石
 木石

水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の

清民
 木石

水 山

水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の

風山
 歌鶴

水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の
 水は枝と流やます枝の

静文
 相琴
 青木
 冠江
 若木
 桑竹
 菊石

最くもくなるかのかりの水は **霁水**

流すの通りの水は **貴乃**

枯れの水 **仁星**

可くもくなるかのかりの水は **智根**

枯れの水 **源通**

一つの水 **井の女**

枯れの水 **川仙**

枯れの水 **桑休**

枯れの水 **泰殿**

虎

弓

松

虎は **其**

弓は **東一**

松は **鬼**

松は **菁**

松は **の**

松は **揚**

金乃

揚

揚

揚

清成
 竹二
 文記
 最能
 相製
 雨靜
 二案
 みり
 松雨

素十
 舞水

千代女
 柳生
 菊仙
 友南

舍用
 貞博

鶴のともやうに... 松教
養の長... 水

水
菜
の... 林鶴
交

水
菜
の... 清氏
作月
至清
采菹

松... 弄水

水
の... 大費
晴河

水
松
の... 圓慶
松
舞

松... 子深

枯

枯野一田のあふ〜。枯る鳥
を〜物に目もあ。枯れぬ〜の
を〜もあふ〜。枯れぬ〜の
を〜もあふ〜。枯れぬ〜の
を〜もあふ〜。枯れぬ〜の
を〜もあふ〜。枯れぬ〜の
を〜もあふ〜。枯れぬ〜の

原雷 正路 素周 龍南 春舟 柳島 梅坂 桑林 附象 欲臨

習

中庭の〜。枯れぬ〜
は〜の〜。枯れぬ〜
は〜の〜。枯れぬ〜
は〜の〜。枯れぬ〜
は〜の〜。枯れぬ〜
は〜の〜。枯れぬ〜
は〜の〜。枯れぬ〜
は〜の〜。枯れぬ〜
は〜の〜。枯れぬ〜

長花 山尖 龍初 昨日 菊飛 風山 桑竹 三巴 伴十

大 根 虫 了

此虫の毒を治すに大根を
 煮て汁を飲めば大根の
 子根を煮て汁を飲めば
 此虫を殺すに大根の
 丹根を煮て汁を飲めば
 此虫を殺すに大根の
 丹根を煮て汁を飲めば
 此虫を殺すに大根の

德 雄 甚 風 小 糸 松 菜 岩 橋 岩 帆 晴 河 申 儀 解 干

茶 麦 蒜

此茶の毒を治すに茶を
 煮て汁を飲めば茶の
 葉を煮て汁を飲めば
 此茶を殺すに茶の
 葉を煮て汁を飲めば
 此茶を殺すに茶の
 葉を煮て汁を飲めば

快 裁 拖 毫 笑 乐 代 山 奔 水

此麦の毒を治すに麦を
 煮て汁を飲めば麦の
 穂を煮て汁を飲めば
 此麦を殺すに麦の
 穂を煮て汁を飲めば
 此麦を殺すに麦の
 穂を煮て汁を飲めば

會 用 妙 意 卓 節

三 五

五泉
 頂樂
 松月
 松教
 素秋
 孤玄
 精神
 琢白
 奈外

文之
 龜泉
 有雅
 丹仙
 二城
 藻植
 菴屋
 再の
 柳眉
 粟堂

湖... 一... 浦... 一... 本... 中... 後... 江... 夫... 松...

一... 星... 太... 園... 三... 松... 井... 源... 松... 得...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

水

子

水

水

水

水

泰

子

女

招

芳

壹

其

生

生

生

水

水

水

水

水

水

水

水

水

水

水

水

一

雨

清

一

三

三

三

三

希

あまのこゝろに
流るる水は
海に流るる水と
異なる

戸水

花垣

柗

音

あまのこゝろに
流るる水は
海に流るる水と
異なる

小海

千原

木

あまのこゝろに
流るる水は
海に流るる水と
異なる

一休

唐詩

あまのこゝろに
流るる水は
海に流るる水と
異なる

松尾

木史

鶴子

音

木

あまのこゝろに
流るる水は
海に流るる水と
異なる

春

順
一
東

柳
一
東

東
一
東

源
一
東

一
東

森

森の葉は海に吹かれ
舟の帆に似たり
舟の帆は海に吹かれ
舟の帆に似たり

葉堂
竹堂
帯水

森の中は静か
森の中は静か

素盤
木更

生

生は生かす
生は生かす
生は生かす
生は生かす

清氏
江三
井原

流

流は流る
流は流る
流は流る
流は流る

作坡
泉雅
棟臣
泉信

結

結は結ぶ
結は結ぶ
結は結ぶ
結は結ぶ

和泥
泉信
里光
也仙
貞人

能中や江丸の... 水所石

水

海... 舟... 東... 昌

由儀

業

新... 船... 舟... 東... 昌

仁星

舟... 船... 舟... 東... 昌

柳高

環

舟... 船... 舟... 東... 昌

一洗

念

舟... 船... 舟... 東... 昌

良の 由儀

舟... 船... 舟... 東... 昌

杉齋

舟... 船... 舟... 東... 昌

舟近

舟... 船... 舟... 東... 昌

牛抱

舟... 船... 舟... 東... 昌

舟丸

舟... 船... 舟... 東... 昌

舟三

舟... 船... 舟... 東... 昌

舟膜

舟... 船... 舟... 東... 昌

舟懸

舟... 船... 舟... 東... 昌

一島

舟... 船... 舟... 東... 昌

竹藪

如執
 外重
 一乃
 重内
 辨地
 一為
 崔江
 周風
 梅郎
 沛陽

如執
 外重
 一乃
 重内
 辨地
 一為
 崔江
 周風
 梅郎
 沛陽

一宜
 楓山
 松石
 乙良
 朱交
 希水
 清氏
 一宜
 文起

一宜
 楓山
 松石
 乙良
 朱交
 希水
 清氏
 一宜
 文起

水 松

風山
水
木
三
巴
山
松

水
松
三
巴
山

水 松

水
松
三
巴
山

水
松
三
巴
山

三

三

頭

巾

一 必 酒 之 名 也 法 之 凡 三 押
也 之 不 部 巾 之 法 也 其 部 也
而 之 巾 之 巾 之 巾 之 巾 也
也 也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也 也

西 辭 粟 飲 巾 仙 晴 河 聽 松

美

也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也

智 角 學 圃

也 也 也 也 也 也 也 也

以 三

巨

德

也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也
也 也 也 也 也 也 也 也

太 山 父 女 桐 野 女 梅 空 松 榮 木 公 岳 林 松 旭 素 風 胤 矣

思ふに松竹の影を
とて掛るる春の影

一松竹
一影

埋

埋中や春の影を
とて掛るる春の影

一水
一交

火桶

火桶の中は春の影を
とて掛るる春の影

一清
一梅
一朗
一映

麦熟の影を
とて掛るる春の影

一麦
一熟

中鉢

中鉢の中は春の影を
とて掛るる春の影

一江
一古
一山
一鉢

湯

湯の中は春の影を
とて掛るる春の影

一塵
一水
一交

湯の中は春の影を
とて掛るる春の影

一水
一交

糖

糖の字のつくりは、
糖の字のつくりは、
糖の字のつくりは、

幻
松
貞人

水

水の字のつくりは、
水の字のつくりは、
水の字のつくりは、

一
水

切

切の字のつくりは、
切の字のつくりは、
切の字のつくりは、

如
切

娘

娘の字のつくりは、
娘の字のつくりは、
娘の字のつくりは、

本
娘

袴

袴の字のつくりは、
袴の字のつくりは、
袴の字のつくりは、

楽
袴

凍

凍の字のつくりは、
凍の字のつくりは、
凍の字のつくりは、

音
眠

水

如月や水は物の中田の如
物にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如

恭眠 其望 子来 相見女 嘉燕 雙水 清馨 龍石 絲板 玄真

水

自水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如

父女 柳眉 養屋 柳至 梅海 東岸 柳頂

水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如
水にこそ水は物の中田の如

清氏 葉作

松林の松の葉の香

松林

里見くち松の香

里見

松

松の香の味

松の香

松の香の味

松の香

松の香の味

松の香

海

海風の香

海風

海風の香

海風

海風の香

海風

夏油

夏油の香

夏油

夏油の香

夏油

夏油の香

夏油

夏油の香

夏油

夏油の香

夏油

夏油の香

夏油

夏油の香

夏油

夏油の香

夏油

楳

三

三

炭

海濱の土揚りてくまのり
薪堆の運び不文。揚り
板折り元木不流。揚り

山炭
大費
雄鳥

まらり〜結り〜以粉炭
庭の奥の掘り中やうのり
薪のまらり堆や炭のまらり炭
海濱の土揚りや元木不流炭
河中の土揚りや板折炭
板折や元木不流。揚り

林茶
以三
重長
有殿
秋野
雄鳥

舟の舟

舟〜〜〜舟
舟〜〜舟

麦野
甚国

舟の舟〜舟
舟の舟〜舟
舟の舟〜舟
舟の舟〜舟
舟の舟〜舟
舟の舟〜舟
舟の舟〜舟
舟の舟〜舟
舟の舟〜舟
舟の舟〜舟

智南
桑依
甚翼
外解
風玉
董六
善嘉

生... 月
 井... 月
 浪... 月
 白... 月
 松... 月
 此... 月
 晴... 月
 興... 月

江三
 木交
 梅包
 一竹
 木抱
 水月
 松晴
 松林
 海島

年
月

... 月
 ... 月
 ... 月
 ... 月

星人
 方水
 二案
 瑞偵

人
の

...
 ...
 ...
 ...

夢雲
 休研
 角止
 赤色
 紫雪

水 田
 水田の形は田の形に似
 たりて水は田の間に流
 れて居るなり

水 田
 水田の形は田の形に似
 たりて水は田の間に流
 れて居るなり

水 田
 水田の形は田の形に似
 たりて水は田の間に流
 れて居るなり

水 山
 水山の形は山の形に似
 たりて水は山の間に流
 れて居るなり

水 山
 水山の形は山の形に似
 たりて水は山の間に流
 れて居るなり

水 山
 水山の形は山の形に似
 たりて水は山の間に流
 れて居るなり

水 山
 水山の形は山の形に似
 たりて水は山の間に流
 れて居るなり

水 山
 水山の形は山の形に似
 たりて水は山の間に流
 れて居るなり

水 山
 水山の形は山の形に似
 たりて水は山の間に流
 れて居るなり

水 山
 水山の形は山の形に似
 たりて水は山の間に流
 れて居るなり

水 山
 水山の形は山の形に似
 たりて水は山の間に流
 れて居るなり

水 山
 水山の形は山の形に似
 たりて水は山の間に流
 れて居るなり

五

水

何れも指折る者なく
梅ありあはれぬ

如月
多賀

梅
指

梅のつぼみは
梅のつぼみは

一
梅

梅
花

梅の花は
梅の花は

光
山

梅の花は
梅の花は

梅
花

梅
の
年

梅の年
梅の年

梅
花

梅
花

梅の花
梅の花

梅
花

梅
花

梅の花
梅の花

梅
花

瑞々たる花のちのちの年を
候しのちのちのちのちのち

一素
拖の星

所

此年のちのちのちのちのち
此年のちのちのちのちのち
此年のちのちのちのちのち

松頂
如親
松体
律吹

年

うさしつちのちのちのちのち
美しつちのちのちのちのち

野井
池山

園

見

あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち

麦野
菊箱
草園
寸段
晴河

丸
掛

あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち
あつちのちのちのちのちのち

智角
赤史
葉仙

嘉永五百題 愛川撰

全二冊

今人五百題 東漢撰

全二冊

續今人五百題 梅本撰

全二冊

同 三篇 今撰

全四冊

安政五百題 伴野居撰

全二冊

群玉集 小纂庵撰 過日庵撰

全四冊

十萬發句集 洞海撰 一具撰

全四冊

發句類集 八采園撰

全二冊

名所千題集 四喜庵撰

全三冊

今人百家類題 過日庵撰

全二冊

近世十家類題 過日庵撰

全二冊

近世名家類題 全撰

全四冊

題林發句集 由誓撰

全四冊

安政附合集 半青居新撰

全一冊

海内人名錄 惺庵西島撰

全二冊

今七部集

全一冊

刊根太郎 于知撰 おもしろ 撰

一二三 沙鷗撰 おもしろ 撰

いさろ 蒼山撰 おもしろ 撰

栗柿 小園撰

一 痛むはらひをたしむるはやくはやくと云ふは、
る敷くも、
不思議の妙業をいふは、

十載廿年喘息

於處の

風の

わら

喉

小使の

疾

は

疾

出

動

小兒

汗

面

面

此

者

折

と

ま

一

登

百

や

江戸下谷御成道
 青雲堂英人藏御衣
 御用 御書物所

青雲堂英人藏御衣



江戸下谷御成道
 青雲堂英人藏御衣
 御用 御書物所

東京

書屋

日本橋南三丁目	須原屋茂兵衛
二丁目	山城屋佐兵衛
新	小林新兵衛
神明前	和泉屋吉兵衛
町	岡田屋嘉七
横山町三丁目	和泉屋金右衛門
横山町四丁目	須原屋伊八
神前町	其屋文藏
本町	福田屋勝藏
本町	其屋文藏

